情報メディア実験A 物理エンジンを使った アプリケーション開発

筑波大学情報学群 情報メディア創成学類 **藤澤誠**

実験スケジュール

- 毎週 水3,4限&金5,6限
- テーマ内スケジュール
 - 1. ガイダンス&事前知識(C++)説明:4/16
 - 2. 物理シミュレーションとは?: **4/21**, 23, 28
 - 3. 物理エンジンとは?:**4/30**, 5/7, 12
 - 4. 剛体間の衝突判定,衝突応答: 5/14, 21, 26, 28
 - 5. 剛体間リンク: 6/2, 4, 9, 11
 - 6. 3Dモデル読み込みと弾性体: 6/16, 18, 23, 25
 - 7. アプリケーション開発: 6/30, 7/2, 7, 9, 14, 16, 21
 - 8. 成果発表会: 7/28

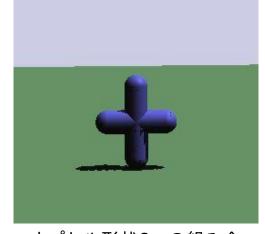
赤太字は説明回,7/22は発表準備&レポート作成回5/7(金)は水曜授業日,5/19(水)は春A期末試験日

複合形状

- 複数の剛体をつなげることで複雑な形状ができないのか?
 - btCompoundShape 複数の形状(プリミティブ)を組み 合わせて,新しい形状を作る



プリミティブ間の位置関係 は固定なので,動きのある オブジェクトは作れない!



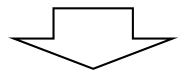
カプセル形状2つの組み合わせでできる形状

Constraint

プリミティブ間で動きのある複合形状はできない のか?

例) ヒンジで壁とつながったドア, 関節でつながった腕, 車軸で車体とつながったタイヤ, etc.

⇒ 剛体間の動きに一定の制約をかければよい



拘束条件 (Constraint)

Constraint-based method

拘束条件に合った動きを求めるために, 拘束条件を数式化

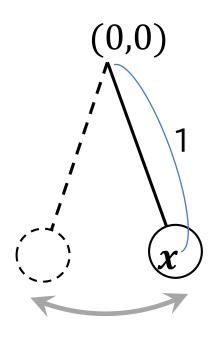
拘束条件:
$$C(x) = 0$$

■ 例) 振り子(原点中心,長さ1)

$$C(\mathbf{x}) = |\mathbf{x}| - 1 = 0$$



$$C(x) = x \cdot x - 1 = 0$$



Constraint-based method

lacktriangle 拘束条件を満たすためにかけるべき力 $oldsymbol{f}_c$

$$\boldsymbol{f}_c = \boldsymbol{J}^T \boldsymbol{\lambda}$$

拘束条件Cの空間微分方向に λ 倍(スカラー倍)

(導出は実験Webページ参照)

単位時間あたりの仕事量(力fと 速度vをかけたもの)を考えて式変形

$$Jv = 0$$

拘束方程式

(この式を満たす*f_c*を求めて使うのがConstraint-based method)

Jは横ベクトル,fやvは縦ベクトルということに注意しよう

Soft Constraint

- 拘束方程式を満たす力 f_cは必ず求まるのか?答え) 多くのオブジェクトがつながっていると 解が求まらないことがある(or 計算時間がかかる
- ペナルティ法と同じく多少のずれは許してしまっては どうか?
 - ⇒ Soft Constraint

$$Jv + \frac{\beta}{\Delta t}C(x) + \gamma\lambda = 0$$
ERP CFM

Soft Constraint

$$Jv + \frac{\beta}{\Delta t}C(x) + \gamma\lambda = 0$$

$$\overline{\text{ERP}} \quad \overline{\text{CFM}}$$

- CFM(Constraint Force Mixing)
 柔らかい拘束を実現するための項 拘束を満たすための力の大きさλに係数をかける ことでずれを許容する
- ERP(Error Reduction Parameter)CFMでできたずれを修正する項

Constraintの設定方法

- bulletでのConstraint設定
 - btRigidBodyのようにbtDynamicWorldに bt*Constraintを追加すればよい

```
btHingeConstraint *c = new btHingeConstraint(body1,body2,...);
g_pDynamicsWorld->addConstraint(c, true);
```

■ CleanBullet関数での破棄も忘れずに

```
for(int i = g_pDynamicsWorld->getNumConstraints()-1; i>=0;i--){
btTypedConstraint* constraint = g_pDynamicsWorld->getConstraint(i);
g_pDynamicsWorld->removeConstraint(constraint);
delete constraint;
}
Constraintをワールドから削除
```

Constraintの設定方法

- bulletでのConstraint設定
 - Soft Constraintの設定方法

```
btHingeConstraint *c = new btHingeConstraint(body1,body2,...);
c->setParam(BT_CONSTRAINT_ERP, 0.5);
c->setParam(BT_CONSTRAINT_CFM, 0.5);
```

*基本的にはbullet側で適切な値が設定されるのでSoft Constraintを使いたくないなどの特殊なケース以外は必要ない

10

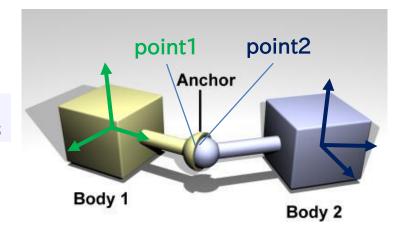
Point2Point Constraint

2つの物体を1点でつなぐ制約(位置固定で回転は自由)

point1とpoint2は同じ位置を示しているが、それぞれのbtRigidBodyから見た相対座標値(ローカル座標)なので値は異なることに注意!

1つの物体を空間上に固定する場合

```
btPoint2PointConstraint *c
= new btPoint2PointConstraint(body1,point1);
```

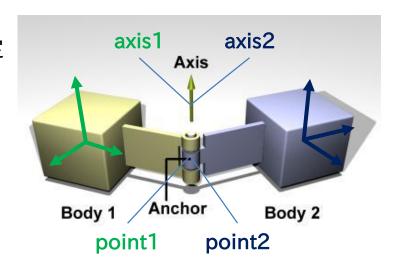


Hinge Constraint

1軸の回転のみを許す制約(ドアの蝶番,車のタイヤなど)

point1,point2,axis1,axis2はそれぞれのbtRigidBodyのローカル座標系での位置と方向。特に方向は初期配置で決まるので注意

enableAngularMotorメンバ関数で一定 速度の回転を加えることも可能



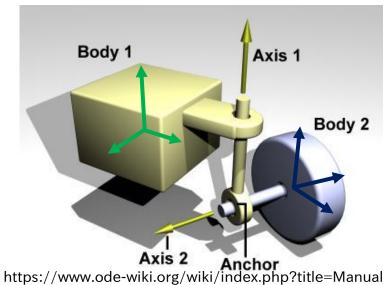
Hinge2 Constraint

直交した2軸の回転が可能な制約(車の前輪など)

```
btHinge2Constraint *c = new btHinge2Constraint(body1,body2,
                                                anchor,
                                                axis1,axis2);
g_pDynamicsWorld->addConstraint(c, true);
```

anchor,axis1,axis2はHingeと違ってグローバル座標(ワールド座標)で あることに注意

axis1とaxis2は直交するように設定

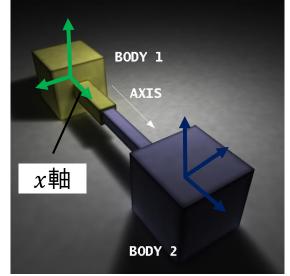


Slider Constraint

設定した1方向しか動けない制約(カーテンレールなど)

frame1とframe2はそれぞれbody1,body2の何も力がかかっていない状態での相対位置/姿勢(btTransform)

スライダーの移動方向はref1で指定 したオブジェクトのx軸方向 (ref1がtrueでbody1,falseでbody2が 基準になる)



Cone Twist Constraint

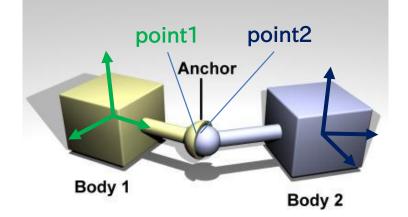
2つの物体を1点でつなぐ制約(位置固定で回転範囲設定)

Point2Pointと基本的には同じだけど、回転角に制限を掛けられるので、キャラクターの間接などに用いられる(ragdollジョイント) frame1とframe2はそれぞれbody1,body2の相対位置/姿勢

(btTransform)

回転範囲の設定

C->setLimit(ang_z, ang_y, ang_x);



Generic 6 DOF Constraint

x,y,z軸方向の平行移動と回転に対する制約を自由に設定

引数はSlider Constraintと同じなのでそちらを参照 ここまで説明したConstraintはすべてこれで再現可能

平行移動制約の設定

```
C->setLinearLowerLimit(btVector3(x1,y1,z1));
C->setLinearUpperLimit(btVector3(x2,y2,z2));
```

回転制約の設定

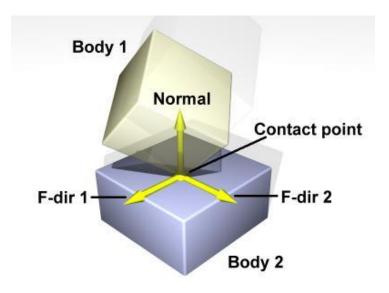
```
C->setAngularLowerLimit(btVector3(ang_x1,ang_y1,ang_z1));
C->setAngularUpperLimit(btVector3(ang_x2,ang_y2,ang_z2));
```

Contact Constraint

通常の衝突を処理するための制約

btContactConstraint *c = new btContactConstraint(manifold,body1,body2);

bullet側が自動的に生成してくれるので、わざわざ指定する必要なし (bulletがConstraintを使って衝突応答を処理しているということだけ 理解していればOK)



BulletでのConstraint

ここからは各自の環境で実際に作業実験ページの「4. 剛体間リンク」の練習問題を実際にやってみよう(余裕のある人はoption課題もやってみよう!)

